



済生会みすみ病院 看護師

古川利子さん

日本臨床アロマセラピー学会員であり、後進の指導も行うクリニカルアロマスペシャリスト(臨床講師認定)。みすみ病院の緩和ケアの一員として、アロマを用いた活動を行っている。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会みすみ病院

院長／藤岡正導、診療科目／内科・外科・神経内科・脳神経外科・整形外科・循環器内科・心臓血管外科・消化器内科・腎泌尿器科・麻酔科・リハビリテーション科

所在地／宇城市三角町波多775-1



(左上) 24時間体制で救急医療も行っている済生会みすみ病院(左下)医療分野での正しいアロマセラピーの普及を目指す「臨床アロマセラピープロジェクト」の仲間たち(右)がん患者支援のチャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014くまもと」にも参加。専門知識を活かし、ボランティアでハンド&フットのトリートメントを実施した



わずかな時間でも
患者さんの不安が
和らぐ空間になればいい

快晴の日曜日、古川さんの姿はあるイベント会場にあつた。がん患者を支援し、がんを考える「リレー・フォー・ライフ」。その一角で、仲間と共にボランティアでアロマトリートメントを行っていたのが古川さんだ。「アロマとの出会いは、16年前だったかな。わく、長いですね(笑)」。今ほどアロマセラピーという言葉に馴染みがなかつた時代に、看護師としての能力を発揮できる分野を模索していたタイミングで出会ったのがアロマだった。現在では医療福祉従事者やセラピスト仲間の普及に努めているリーダー的存在だ。

勤務する済生会みすみ病院では、アロマを使って緩和ケアに取り組んでいる。体の痛みや足のむくみ、だるさや心の不安などを持つ末期のがん患者、そしてそれを支える家族に対してアロマケアを行う。「アロマトリートメントや足浴などを行います。わずか10～15分だけど、今空の苦痛が少しでも忘れられる空間になればいい。そしてそういう活動を理解しバックアップしてくれる病院にも、本当に感謝しています」と古川さん。実は以前別の場で、「こんな体験をしたそうだ」「意識の無い患者さんへのトリートメントでした。アロマオイルを使って体をケアしている最中に『気持ちいいですか?』と声をかけたら、はつきりとうなずかれたんです。一緒に

にいた奥様も驚かれていました」。古川さんのタッチングと植物の香りで脳を刺激されたからか、わずかでも蘇つた反応に古川さん自身も目を見張ったという。

今は看護師勤務のかたわら、アロマに関して同じ志を持つ仲間と共にボランティア活動にも勤しむ古川さん。「熊本でも医療現場での横つながりが生まれ、イベントなどにも参加できるようになりました」。アロマセラピーの正しい知識を持つて、正しい使い方をしてほしい』というのが願い。私は「縁の下の力持ち『ですけどね(笑)」。そう控え目に話す古川さんだが、行動から伝わるアロマセラピーへの情熱は今もなお、溢れ続けている。